

Smiles

新学習指導要領への移行期間と新教材

特集

- ◆移行期間用の文科省教材が出そろう ②
- ◆移行期間をどのように進めるか／金森 強 (文教大学教授) ④
- ◆新教材のよりよい活用のために／田邊義隆 (近畿大学准教授) ⑥

授業実践

- 外国語コミュニケーションの楽しさを伝えるアクティビティの工夫／
印西市立原山小学校 ⑩
- 異校種連携による英語活動の充実／
河上 卓 (武蔵村山市立第三小学校主任教諭)
菅沼康志 (武蔵村山市立雷塚小学校主任教諭) ⑫
- 豊かなコミュニケーションを育むアクティビティ (3) ／
遠藤恵利子 (仙台市立向山小学校教諭) ⑭

連載

- ◎心を伝える Classroom English (3) ／
福田 スティーブ利久 (文教大学准教授) ⑮



新学習指導要領への移行期間と新教材—01

移行期間用の文科省教材が出そろう

3～4年生は *Let's Try!* 1～2, 5～6年生は *We Can!* 1～2

文部科学省が、移行期間（平成 30～31 年度）のために配布する小学校外国語活動用の新教材、*We Can!* 1～2（5～6 年生用）の内容を昨年 9 月に、*Let's Try!* 1～2（3～4 年生用）の内容を 12 月に公表しました。いずれも文部科学省のウェブサイト「新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材について」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm）から見本が PDF ファイルで入手できます。このサイトでは、この他に、3～6 年生用の「年間指導計画例」、「ワークシート」や 3 年と 5 年の 1 単元分「指導書サンプル」、『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』等もダウンロードできます。「学習指導案例」については、随時更新が予定されています。

また、ID とパスワードが付与された学校や教育委員会などが利用できる「新教材ダウンロード専用サイ

ト」が設けられており、こちらでは 3～6 年生用の「教師用指導書」、「デジタル教材」、さらに弱視者用の「拡大版」なども公開されています。本稿作成時点では、さらに「点字版」が 3 月掲載予定となっています。

移行期間における新教材の扱い方

移行期間に必ず確保することが求められている「外国語活動」の時間数は、3～4 年生が年間 15 単位時間、5～6 年生が年間 50 単位時間ですが、*Let's Try!* のすべての内容を活用した場合に想定される配当時間は年間 35 単位時間、*We Can!* は年間 70 単位時間です。*Let's Try!* や *We Can!* を使用する場合は、各学校で確保できる時間数などに応じて、必要な内容を選択・抜粋して活用することになりそうです。

なお、実際に配布される *We Can!* 1 の冊子には *Hi, friends!* 1 が、*We Can!* 2 の冊子には *Hi, friends!* 2 が、それぞれ合冊になって付属する予定です。とくに扱う指導内容が多い平成 30 年度の 5～

【3 年生】	15 時間 配当の 場合	標準の 35 時間 を想定した 配当時間 ※1	【4 年生】	15 時間 配当の 場合	標準の 35 時間 を想定した 配当時間 ※1
<i>Let's Try!</i> 1 Unit 1	2	2	<i>Let's Try!</i> 1 Unit 1	1	2
<i>Let's Try!</i> 1 Unit 4	4	4	<i>Let's Try!</i> 1 Unit 2	1	2
<i>Let's Try!</i> 1 Unit 6	4	4	<i>Let's Try!</i> 1 Unit 4	3	4
<i>Let's Try!</i> 1 Unit 8	5	5	<i>Let's Try!</i> 1 Unit 6	3	4
<i>Let's Try!</i> 1 Unit 9	帯	5	<i>Let's Try!</i> 2 Unit 2	2	4
合計	15 + 帯	(20)	<i>Let's Try!</i> 2 Unit 5	3	4
			<i>Let's Try!</i> 2 Unit 8	2	4
			<i>Let's Try!</i> 2 Unit 9	帯	5
			合計	15 + 帯	(29)

※ 1) 年間 35 単位時間で、*Let's Try!* 1 を 3 年生で、*Let's Try!* 2 を 4 年生で扱った場合に文部科学省が「年間指導計画例（案）」で想定している授業時数

6年生に対しては、*Hi, friends!* の内容を多く扱いながら *Let's Try!* や *We Can!* の内容を精選して（各単元で少しずつ時間を切り詰めて）追加する指導計画

の立案が必要になるでしょう。2つの表は、文部科学省が例示した「移行期間における学習内容例」より、平成30年度用の内容を整理したものです。

【5年生】	50時間 配当の 場合	標準の70 時間を想定 した配当 時間 ※2	【6年生】	50時間 配当の 場合	標準の70 時間を想定 した配当 時間 ※2
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 1	1	2	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 1	3	4
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 2	1	2	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 2	4	4
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 3	4	4	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 3	4	4
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 4	5	5	<i>We Can!</i> 1 Unit 5	2	8
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 5	4	4	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 4	5	4
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 6	5	5	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 5	4	4
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 7	4	4	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 6	5	5
<i>Hi, friends!</i> 1 Lesson 9	4	4	<i>Hi, friends!</i> 2 Lesson 8	4	4
<i>Let's Try!</i> 2 Unit 6	4	4	<i>We Can!</i> 1 Unit 9	2	8
<i>We Can!</i> 1 Unit 1	2	8	<i>We Can!</i> 2 Unit 1	1	8
<i>We Can!</i> 1 Unit 3	3	7	<i>We Can!</i> 2 Unit 3	2	8
<i>We Can!</i> 1 Unit 5	5	8	<i>We Can!</i> 2 Unit 4	2	8
<i>We Can!</i> 1 Unit 7	3	8	<i>We Can!</i> 2 Unit 5	4	8
<i>We Can!</i> 1 Unit 9	5	8	<i>We Can!</i> 2 Unit 7	4	8
合計	50	(73)	<i>We Can!</i> 2 Unit 9	4	8
			合計	50	(85)

※2) 年間70単位時間で、*We Can!* 1を5年生で、*We Can!* 2を6年生で扱った場合に文部科学省が「年間指導計画例（案）」で想定している授業時数。

6年生で *Hi, friends!* 2の Lesson 4 を扱う場合のみ、標準的な配当時間に1時間追加されています。これは、新教材 *We Can!* 1の Unit 7 で扱っている「ものの位置を表す語句」を扱うためとのことです。この他、留意点として、5年生の *Hi, friends!* 1の Lesson 6 使用時からは「活字体の大文字に適宜触れ、十分慣れ親しませるようにする」こと、6年生の

年初からは「毎時間少しずつ活字体の小文字に触れ、十分慣れ親しませるようにする」ことが示されています。3年生、4年生についても新教材 *Let's Try!* を扱う際には、当該の単元内で定着を図るのではなく、それ以降の時間にも関連する活動を適宜行うことが求められています。



ココも Check!

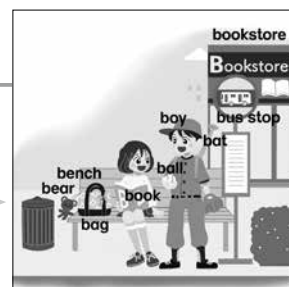
表紙の絵から英単語を探してみましょう

Question

表紙の絵には、B から始まる内容の語が描かれています。どんな語が隠れているか探してみましょう。

Answer

bookstore, bat, bus stop, ball, boy, bag, bear, bench, book



新学習指導要領への移行期間と新教材—02

移行期間をどのように進めるか

新学習指導要領全面実施までの移行期間、
小学校の英語の授業をどのように進めるべきか、
各自治体によって実施の方法は様々です。高学年を 70 時間、
中学年を 35 時間で実施するところもあれば、
高学年 50 時間、中学年 15 時間で進める学校もあります。担当する
教員においても、担任に加え ALT が毎回授業に入る学校もあれば、
予算削減のため十分な ALT の配置ができなくなったという学校
もあります。

一方、専科教員が一人で指導するという取り組みを
始める自治体も出てきました。
全国で実施される教育の内容や条件がこれほどまでに
違っていてもよいものか、不安の声も聞こえてきています。
「読む」「書く」指導をどこまでやるのか、やり方を間違っ
てしまうと児童にとっても教師にとっても負担が
大きくなりかねません。全面実施までの移行期間の在り方
について押さえておくべき点について一緒に考えてみましょう。



かなもり つよし
金森 強

文教大学教育学部教授

●
第四期中教審外国語専門部会専門委員、
中学校英語教科書『ONE WORLD』(教育出版) 著者。
日本児童英語教育学会理事、
日本英語音声学会理事ほか。
小学生への指導経験を踏まえ、
教材開発と全国各地での指導にあたる。
著書に『小学校の英語教育』(教育出版)
『小学校外国語活動の進め方』(成美堂) ほか。
共著書に『主体的な学びをめざす小学校英語教育』
(教育出版) ほか。

高学年 70 時間、 中学年 35 時間で取り組む学校

このやり方で実施を決めた、私の把握している学校
や教育委員会では、文部科学省から出される様々な
情報を収集整理し、学校現場のサポートとなる提案
をするために小中一貫カリキュラム作成委員会等を作り、
スムーズな実施に向けた準備を進めています。ただし、
五月雨式に流される情報に応じて修正を余儀なくされたり、
肝心の具体的な指導案・評価についての詳細について
新学期が始まるぎりぎりまで明らかにされていないか
たりする状況に、困惑しているというのが本音のところ
のようです。

We Can! を効果的に使用するには

移行期間中の 2 年間だけで使用される文部科学省
の共通教材 We Can! 1, 2 ですが、理論上は、3・
4年生で Let's Try! を年間各 35 時間学習した上で 5・

6年生が、各 70 時間を使って学習する教材として作
成されたものと考えられます。系統性や児童の発達段
階に応じた活動が丁寧に吟味されて作成されているは
ずです。

ただし、3年・4年の2年間各 70 時間を使って
Let's Try! 1, 2 の内容を学んでいない小学校では、
We Can! 1, 2 のそのままの使用は難しいはずです。
例えば、語彙もそうですし、文字の指導に関して言え
ば、「音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を読んだり
書いたりする」という前提、つまり、3年生からの
音声中心の慣れ親しみの積み重ねがあって初めて We
Can! を用いた文字指導が成り立つことを無視するこ
とはできません。

5年生において、たとえ年間 70 時間の実施を行っ
たとしても、3年・4年の学習経験なしに We Can!
1 で目指しているゴールまで到達しようとする、どこ
かに歪みが生まれてくるに違いありません。

更に、指導者が実施することになっている Small
Talk の例を見てみると、高学年を担当する教師には

高いレベルの英語力が求められることが分かります。実際には、それほど高い英語力を持った小学校教員数は限られているはずで、教員配置を工夫して実施できると言われる自治体は多くはないでしょう。

高学年 50 時間、 中学年 15 時間で取り組む学校

時間が少なければ楽になるということではありません。文部科学省が例示している「移行期間における学習内容例」では、50 時間での実施の場合、*Hi, friends!* を中心に *We Can!* の一部を使用するように示されています。「教科」として、英語の基本的な技能を定着させるために作成された *We Can!* と「領域」として、英語への慣れ親しみ、素地を育てることをねらいとする *Hi, friends!* を合わせて指導することはそれほど簡単ではないはずです。

出版社等から高学年各 50 時間、中学年各 15 時間の指導計画案が出されており、学校や自治体によってはそのまま実施するように計画しているところもあるようですが、文科省が教材作成の際に考えた本来の配当時間数を考慮せず、言語材料が関連する部分をつなぎ合わせるだけの指導計画になっているものもあるようです。また、そのような指導案が、実際の現場でどれくらいの効果があるのか、十分な検証がなされているわけでもないはずです。たとえ研究開発校等の特殊な教育環境で実施可能であったとしても、英語活動の指導経験が少ない教師の多い学校やクラスサイズが異なる学校で同じような効果が期待できるはずはありません。

特に、評価をどのように考えるのか、学校や自治体でしっかりとした共通理解ができていないと、学習内容や評価基準、評価の方法が統一されないままでの実施になりかねません。中学校英語の前倒しの指導になってしまったり、音声指導の苦手な教員が「読み」「書き」の指導に逃げてしまったりするようなことになってはいけません。いずれにしても、移行期間の評価の在り方については工夫が必要となるでしょう。これまでの領域としての評価と同じままではいけません。 *We Can!* を使用する意味がなくなってしまうからです。

Hi, friends! と *We Can!* の合体？

例えば、文科省が公表した「移行期間における学習内容例」では、6 年生の最終単元として *We Can!* 2 の Unit 9 に 4 時間が配当されています。本来は 8 時間配当で、たっぷりと聴く活動の実施を通じた指導が想定されている単元です。この単元を最終目標はそのままで、半分の時間で指導することが可能とは到底思えません。音声言語としての英語に慣れ親しむ活動が十分でなければ、文字指導まで到達することは不可能なはずです。「読む」「書く」までを含めてゴール設定してしまうと、限られた時数での指導は難しくなるはずです。また、4 時間に削るとしたら、どの活動部分を削ればよいのでしょうか。英語教育に関する専門的な知識や経験が十分ではない小学校教員に任せてよいことではなさそうです。より多くの児童に「できる」という達成感を与えるためには、十分な慣れ親しみの時間が必要です。中学校の英語学習への期待を抱かせるためにも、小学校での英語学習体験を、中学校で英語を学ぶことへの更なる動機付けとなる充実した時間にすることが大切です。

子ども、教師の実態に合った指導を

公益財団法人こどもの貧困対策センター「あすのば」が行った「子どもの生活と声 1500 人アンケート」中間報告 (2018/2/13) によれば、経済格差が広がるなか、保護者が諦めたことのトップとして、子どもの「塾・習い事」が 70% 近い数字で挙げられていました。中学校入試に英語のペーパーテストを課す学校も増えていると言います。

学校外で英語に触れることができる児童だけではなく、学校の授業だけで十分育てることが可能なゴール設定をすべきなのは当然のことです。したがって、各学校においては、これまでの児童や教員の学習・指導経験等、各学校の実態に応じた、丁寧かつ慎重な取り組みが求められます。

新教材のよりよい 活用のために

移行期間中は、中高学年、あるいは小中の接続の観点から、「最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱う」ことが小学校教育現場には求められています。現場に課せられた新たな試練と言っても過言ではないでしょう。
この度の新教材はその支えとなるべく開発・作成されているはずですので、その活用を考えることが有効な対策になるのではないのでしょうか。



たなべよしとか
田邊義隆
近畿大学 法学部 准教授

● 翻訳業、高校教員の職を経て、現任校に着任。英語教育学を専門として、大学で教員養成に携わるほか、小学校や自治体の教員研修で講師を務めたり、学会運営に関わったりしながら、地道に教育現場の支援に努めている。
共著書に、『主体的な学びをめざす小学校英語教育』、『Q&A 小学校英語指導法事典』（ともに教育出版）、『新編 小学校英語教育法入門』（研究社）ほか。

新学習指導要領の移行措置または先行実施に向けて、新教材が手元に届きました。4月を迎えるまでに、校内研修や教育委員会等の研修講座などでその使用感を確かめた先生方もいらっしゃるかもしれませんが、実質的にはこれから授業で実際に使ってみながら試行錯誤していくことになるのではないのでしょうか。本稿では、新教材をよりよく活用するために確認が必要と思われる点に触れたいと思います。

新教材をより効果的に使うためには、その編集方針、つまり「新教材の特色」を知ることが手がかりになるはずです。その特色は、2017年9月に開催された「新学習指導要領に対応した小学校新教材説明会」において、下記のように説明されています。

新教材の特色（各項目の最後に「の設定」あり）

- ①子供の興味・関心に合う題材
- ②場面設定から使われている語句や表現を推測し、語句や表現に出合わせる活動
- ③映像資料を視聴して考える活動
- ④既習語句や表現を繰り返し活用する活動、対話の

続け方を身に付ける活動

- ⑤言いたいことを表現できるような学習内容
- ⑥細かなステップを踏んだ、読む・書く活動
- ⑦ゆっくり文字を読んだり、書いたりする活動
- ⑧読んだり書いたりする必然性のある活動
- ⑨読むことに慣れる、自分で読むようになる活動

この9点の解説において、Let's Watch and Think / Read and Write / Read and Watch や Sounds and Letters といった、Hi, friends! にはなかった新たな活動設定や、三人称や過去形などの新たな学習内容の追加などにも触れられています。説明会以前の報道においても、大きな変化として世間の関心を引いていたのは後半の目新しい部分でしたが、「読む・書く」が直接的に関係するのは高学年の We Can! のみです。

「読む・書く」活動の重要性は改めて強調するまでもありませんが、小学校教育現場においては、まずは中学年の Let's Try! にも共通している①～⑤の前半部分に目を向けるべきではないのでしょうか。これまで

Hi, friends! で行ってきた指導を見直す機会にもなる
と考えるからです。そこで、前半の項目と関連が強い「聞
く」活動を取り上げてみたいと思います。

「聞く」活動の扱い

音声や文字で表現させる産出活動に意欲的に取り
組ませるためには、まずは聞く活動の充実が求めら
れます。そのためには、単元計画を立案するにあた
り、目標とする語句や表現をあの手この手で聞かせ
るところから始め、活動内容が少しずつ受信から発信
に移行するよう、一連の指導を設計する必要があります。
時間数の増加に伴って総ページ数が増えているの
も理由のひとつではありますが、We Can! では従来の
Hi, friends! よりも聞く活動が多く設定されている
ので、インプットを充実させた授業展開が計画しやす
いでしょう。Unit によって、設定してある活動数には

らつきがあるため少し戸惑うこともあるかもしれませんが、
Let's Listen に加え、Let's Watch and Think
も重要なインプット源として位置づけてあります。

これらの活動を行う際には、機械的な答え合わせ
に終始することのないよう、聞かせる前に誌面のイラ
ストや画像について発問してみたり、聞き取るポイント
を焦点化してみたり、また、答えの確認が終わった後
には目標とする語句や表現を使ってペアで口慣らし程
度の練習をしてみるなど、各活動に広がりをもたせる
指導が求められます。これに加え、Small Talk で同
じ表現を使って指導者のことを話したり、子どもたち
とやり取りしたりすることで、聞かせる分量をさらに増
やし、より充実したインプット機会とすることができま
す。このような指導の流れは、児童用冊子とともに公
開されている学習指導案例(参考 1, 2)でイメージ
をつかむことができますし、基本的には Hi, friends!
を使って実践してきた指導と根底にある部分は変わり

(参考 1) 学習指導案例 We Can! 1, Unit 1, 1 ページ目)

習定版		資料 2
5年一Unit 1		単元名 Hello, everyone. アルファベット・自己紹介
平成 29 年 8 月 21 日新教材開発会資料		
1. 単元目標		
・好きなもの、欲しいものなどを聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の大文字を識別し、読む(発音す る)ことができる。(知識及び技能)		
・自己紹介を聞いて分かったり、好きなものや欲しいものなどを伝えたりする。(思考力、判断力、表現力等)		
・他者に配慮しながら、簡単な自己紹介をしようとする。(学びに向かう力、人間性等)		
2. 言語材料 (下欄は新出表現)		
○ Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosuke). How do you spell your name? K-Y-O-S-U-K-E. I like / don't like (haha). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball). ○ nice to meet, spell, new, very much, class, badminton, chocolate, let's have, name, animal, watch, think [既出] 挨拶・自己紹介、活字体 (大文字、小文字)、色、飲食物、果物・野菜、動物、数、スポーツ		
3. 該当する学習指導要領における領域別目標		
聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表 現を聞き取ることができるようにする。	
読むこと	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。	
話すこと (発表)	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話することができ るようにする。	

4. 単元計画 (8 時間)

時	目標 (●) と主な活動 (【 1 】、【 2 】)	【 1 】＝誌面化されている活動	【 2 】＝評価観点の観点
1	●好きなものを聞いたり言ったりすることができる。	○Small Talk: 自己紹介 ○歌: Hello Song (4 年生 Unit 2) ○チャンツ 4 年生 Hello. ○挨拶をしよう ・教室内を歩いて回り、ペアになり名前を言ったり挨拶をする。 【Let's Listen 1】 p.4 ・登場人物の自己紹介を聞いて、登場人物とイラストを線で結ぶ。 【Let's Play 1】 p.4 ・指導者の好きなものを予想して、What ~ do you like? と指導者に尋 ね、自分の予想が当たっているかを確かめる。 ○簡単な自己紹介をしよう ・前活動と通うペアで挨拶をし、名前、好きなものを言い合う。 ○チャンツ: What do you like? (オプション 3 年生 Unit 5)	●好きなものを聞いたり言ったりす ることができる。(行動範囲)
2	●何が好きなものか尋ねたり答えたりできる。	○Small Talk: 名前のスペル ○歌: ABC(abc) Song (3 年生 Unit 6, 4 年生 Unit 6) 【Let's Listen 1】 p.4 ・再度聞き、自身の名前を見ながらスペルを言う。 ○ミッシング・ゲーム (文字) 【Let's Watch and Think 1】 p.2, 3 後半	

(参考 2) 学習指導案例 We Can! 1, Unit 1, 6 ページ目)

習定版		資料 2
Unit 1-Lesson 2 単元名 Hello, everyone. アルファベット・自己紹介		2/3 時間
目 標 何が好きなものか尋ねたり答えたりできる。		
庫 庫 教師用カード (大文字)、デジタル教材、振り返りカード		
時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価方法
10 分	・挨拶をする。 ○Small Talk: 名前のスペル	・全体に挨拶し、個別に数人の児童に問いかける。 ・本時のめあてと流れを児童と共に確認する。 ・自身の名前をローマ字で黒板に書き、文字を読む。 その前に、児童も一緒に読むように促す。代表児童 数名の名前も同時に一緒に読み、裏につなげ る。
Small Talk: 名前のスペル (例) Hello, everyone. This is my name. (黒板にローマ字で名前を書きながら) T-A-N-A-K-A Y-U-M-I. My name is Tanaka Yumi. T-A-N-A-K-A, Tanaka is my family name. Y-U-M-I, Yumi is my first name. Look, this is Hana. H-A-N-A, Hana san. Look, this is Aoi. A-O-I, Aoi san. How do you spell your name?		
5 分	○歌: ABC(abc) Song (3 年生 Unit 6, 4 年生 Unit 6)	・児童と一緒に歌う。
5 分	【Let's Listen 1】 p.4 ・再度聞き、自身の名前を見ながらスペルを言う。	・誌面を見ながら音声を再度聞かせる。聞き終わ った後、登場人物の名前の文字をみんなで読む。代表 児童数名の名前の文字を提示し、みんなで一緒に読 み、次の活動につなげる。
5 分	○ミッシング・ゲーム (文字) ・なくなったカードの文字を書き、	・黒板に文字カード 5 種類を貼り、児童とその読み 方を確認する。取り上げる文字は、1 回目は、児童 の名前に多い文字、2 回目は、児童の名前に少ない 文字とする。 ・児童に目をつくらせ、その間に 1, 2 枚カードを 隠す。児童になくなったカードの文字が何かを尋ね る。
10 分	【Let's Watch and Think 1】 p.2, 3 後半 ・映像を視聴し分かったことを発表す る。 ・身の回りや外国語が使われている場面を 紹介する。	・児童と一緒に映像資料を視聴しながら聞き取れた ことや繰り返し出てきた表現などについて確認す る。 ・児童が題材として外国語を学ぶ意味とともに考 え、今後の学習への見通しをもてるようにする。 ・児童の発言により、何らかの形で内容を補完する といふ。
英語が使われている様々な場面 映像資料スクリプト 観光案内 TC: Please look at the tower in front. It's Tokyo Skytree Tower. It was built in 2012 and it is 634m high. Tourists: Urah (等身大の人形) 会場 MC: Good morning, ladies and gentlemen. Please take a look at your handout. Today's agenda is		

ません。

新教材活用の第一歩としては、先に述べた点を踏まえたうえで、児童用冊子の誌面上に用意された活動に慣れることを目標として取り組めばよいと思います。しかしながら、この度の新教材に限らず、教材で扱われる題材には、さまざまな学習者が使用することを踏まえると、ある程度の汎用性が必要です。必然的に、聞こえてくる内容も無難なものです。そこで、子どもたちの興味を喚起し、関心を高め、目標とする語句や表現とのよりよい出会いを演出するためには、「話題」を掘り下げ、「場面」から推測させるかたちで、聞く活動を用意することが求められます。

これができるのは、やはり目の前の子どもの様子をj知る学級担任や学校関係者です。各単元で目標とする語句や表現と子どもたちを繋ぐには、先生オリジナルの Let's Listen や Let's Watch (and Think) を用意するのが理想的です。例えば、We Can! 2 Unit 5 My Summer Vacation の学習指導案(『研修ガイドブック』p.65)では、第1時にデジタル教材の Let's Listen 1 を使って、I went to ..., I enjoyed ..., などの表現の導入が行われています。できればこの活動を行う前に、目の前の子どもたちに響くトピックに関連付けて導入したいところです。

教師用指導書にも「導入として音声を聞かせる前に、指導者が自分自身の夏休みの思い出について、当該表現を使って話をするとよい」(p.48)と書いてありますが、子どもたちがもっと興味を示すのは、先生の若かりし頃に過ごした夏休みかもしれません。当時の画像など見せながら、感慨深く話をするといった演出をしてみせると、子どもたちをぐっと引き込むことができるのではないのでしょうか。少しずつ時間を遡るようにすれば、同じ表現を繰り返し用いて何度も聞かせることもできます。

さらに、子どもたちにまとまった内容を聞き続けさせるには、目標とする語句や表現が使われる題材設定を工夫することに加え、既習事項を適切に活用したり、視聴覚資料や動作などの非言語情報も適宜取り入れたりして、子どもたちが語句や表現の意味を推測

する補助となる足がかりを巧みに設定する必要もあります。

このように、新教材のよりよい活用を考えるためには、これまでの指導を振り返りつつ、新しい教材を使った授業設計をしていくべきと考えます。

教授資料の活用

新教材のよりよい活用を考えるうえで、この度提供された教授資料一式にも目を向けてみます。小学校の外国語教育は2011年に「外国語活動」が必修化される以前から全国規模で取り組まれてきましたが、小学校教育現場では相応の自信をもって指導に当たっている先生方ばかりではなく、むしろ不安を抱えながら進められている現状があることは、文部科学省だけでなく民間の調査でも明らかにされているところです。

このような現状への配慮は、この度の新教材開発・作成時にも見られます。「新教材」には、児童用冊子、デジタル教材、ワークシート、年間指導計画例、学習指導案例、教師用指導書の6点がパッケージ化されています。この中の教師用指導書は、Hi, friends! でも用意されていますが、限られた誌面に要点が凝縮して掲載されているので、必要最低限の情報ではあっても、We Can! と Let's Try! の全体像やそこに掲載されている活動のねらいを把握したり、教材研究を進めたりするうえで役立つはずでs。

また、活動を導入する際に必要な教室英語や Small Talk の糸口が示されていたり、子どもの実態に応じた活動の展開方法の例や、単調な繰り返しを防止するための活動のバリエーションなども簡潔に補足されたりしています。さらに、対話的な学びを展開できるように、子どもたちとのやりとりを意識した展開例や、気づきや思考を促す発問の具体例も挙げてあり、教員が新教材を使いながら指導力をつけていくためのヒントや指導上の留意点が適度にちりばめられていますので、授業準備を支える情報源として大いに活用すべきでしょう。

昨今の教育現場の現状を踏まえると、自転車操業

例えば *We Can! 1* Unit 5 She can run fast. He can jump high. では、最初の見開きページに Let's Play があり、子ども同士のやり取りやクイズが設定さ

これに加え、学習指導事例には児童用冊子の誌面にも教師用指導書にも出ていない活動が加えられています(参考 1, 2 の○つき項目部分を参照)。例えば、*We Can! 1 Unit 1 Hello, everyone.* の 2/8 時間にある「ミッシング・ゲーム(文字)」のように、段階的指導を考慮して必要な活動が適宜追加されているので、教師用指導書はあくまでも教授資料パッケージの一部であることを念頭に置いたうえで参照することが求められます。

新教材を含め、移行措置の関連資料は膨大な分量に及んでいます。指導に当たる先生方がこれらをすべて消化するには、相応の時間を要すると思われます。しかしながら、多少のばらつきはあるとしても、小学校の先生方にはこれまで取り組んできた外国語活動

の指導経験が下地としてあります。したがって、新学習指導要領の移行措置または先行実施は完全な「リセット」ではないはずです。入門期における「音声を中心とした」外国語教育の「体験的な」授業の在り方などは、小学校教育現場にかなり浸透してきた感があります。新教材をよりよく活用するためにも、これまでの積み上げを振り返りつつ、新たな内容に取り組んでいきましょう。



外国語コミュニケーションの楽しさを伝える アクティビティの工夫

—自分の思いや考えを伝え合うコミュニケーション活動に取り組む児童の育成—
■千葉県印西市立原山小学校の実践

平成 28 年度から印西市教育委員会により外国語活動推進研究校の指定を受けている原山小学校。
外国語コーディネーターを設置し、ALT、学級担任と一丸となって英語使用の日常化を促進。
校内放送だけでなく、登下校や朝の会の挨拶も英語で行い、
児童に外国語でコミュニケーションを図る楽しさを伝えようと取り組んでいます。
同校での外国語活動指導法研修会より、公開授業の様子をレポートします。

地域の教師・高校生も参加した アクティビティ

「At the airport」と題された 6 年生の授業では、
空港の入国審査・税関審査という場面設定で、市内
の外国語活動コーディネーター、近隣小中学校の英
語教師や高校生の協力で入国審査官・税関審査官に
扮してもらい、旅客役の児童と実際の空港さながらの
会話を繰り広げました。

冒頭で学級担任の根本未来先生、ALT の Yvonne
Lawson 先生と一緒に英語で挨拶し、「エーデルワイ
ス」を歌唱してウォームアップ。黒板に書かれた基本
フレーズを復習したあと、児童たちは事前に作成した
オリジナルのパスポートを手にも U.S., Canada, U.K.,
France, Russia, Italy, Australia の 7ヶ国の中から
行きたい国の国旗が飾られたテーブルに並び、まずは
入国審査、次に税関審査へと進みます。



● 実際の入国審査でも使える会話をシミュレーション

審査官: Show me your passport, please.

児童: Sure. Here you are.

審査官: What's the purpose of your visit?

児童: Study.

基本会話がメインの入国審査では、これまでの授
業で練習してきた成果もあり、緊張しながらもスム
ーズに返答している児童が多く見受けられました。ALT
や担任はうまく答えられない児童をジェスチャー等で
優しくフォローします。審査官からスタンプを押して
もらい、“OK. You may go now.”と言われると次は税
関審査。

税関審査では自分の好きなものについて 思いを伝える楽しさを実感

審査官: Do you have anything to declare?

児童: Nothing.

審査官: Open your bag.

児童: Sure.

それぞれ自分の好きなものを入れてきたというボ
ストンバッグからはぬいぐるみやコミック本、T シャツ
など個性豊かなアイテムが飛び出し、審査官役の教
師からも “What is this stuffed toy?”, “Do you
like this character?”, “What animal do you
like?”, “How many T-shirts do you have?” と
機転を利かせた様々な質問が飛び交います。最初は
緊張ぎみだった児童たちも、自分の好きなものを伝

えるということで自然と言葉に思いが乗り、場内には笑顔があふれます。最後に“What do you want to be?”と将来の夢を問われると、“I want to be a soccer player!”と元氣よく答える児童も。何とか答えようと言葉を探す児童たちの姿が見られました。



● お気に入りのぬいぐるみを説明するのが楽しそう

30 分程のアクティビティが終了すると最後に担任の根本先生が“How many stamps did you get? (スタンプをいくつ押してもらった?)”と質問。7ヶ国すべてのスタンプを押してもらったという児童もあり、国ごとに違う絵柄のスタンプを押してもらえるので、ゲーム感覚で楽しめたようです。

身体を動かしながら覚えることで 英語が身近に

4 年生の授業ではグループごとにオリジナルの「A Big Turnip (大きなかぶ)」劇を披露。キリンやペンギン、ユニコーンなど、もともとのストーリーにはない個性豊かなキャラクターが登場し、児童も役になりきって、ジェスチャーも豊かに生き生きと演じていました。

本来は 6 年生向けの劇のため、ALT と外国語活動コーディネーターは児童が知らない単語を支援、1 組と 2 組の担任が児童の役割演技を通して自己肯定感が高まるように指導計画を立て、児童を支援し進めてきたとのこと。“turnip”など発音が難しい単語はあえてカタカナでは紹介せずに、自分の耳で聞こ

えたとおりに書かせて、児童がストレスなく台詞を言えるように工夫。他のグループの発表後には“Nice gesture!”, “Good job!”など積極的に言葉をかけており、友だちの伝え方のよさを認めて称賛する「あいづちワード」がしっかりと児童たちに浸透している様子も見られました。



● 目を輝かせながら演じていた児童たち

場面を工夫したアクティビティで 児童の積極性を引き出す

同校は、28 年度から校長のリーダーシップのもと、外国語コーディネーターの協力を得て、年間指導プランの蓄積、学級担任指導の授業形態に取り組んできました。インタビュー活動や英語であ・そ・ぼ(もっと英語で話したい、遊びたいという児童が集う英語ひろば)を開設し、児童の自己肯定感を育んできました。1 年生から外国語活動を取り入れ(低学年 10 時間・中学年 15 時間)、「あいづちワード」(“Good job!”, “Nice try!”など)やジェスチャーの活用により、会話を持続していこうとする児童たちの意欲が向上したと成果を実感する一方、自分の思いや考えを伝える場面では、どうしても消極的になってしまう児童が多いとのこと。しかし今回 6 年生の授業で審査官役を務めた他校の教師からは「ほとんどの児童がアイコンタクトをとって会話していて良かった」との感想もありました。4 年生の劇でも“I’m a small ant.”と自発的に形容詞を加えて自己紹介する様子が見られるなど、児童が自分の思いを伝えたいような場面を工夫したアクティビティを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が培われていると言えそうです。



異校種連携による英語活動の充実

■河上 卓（東京都武蔵村山市立第三小学校） ■菅沼康志（東京都武蔵村山市立雷塚小学校）

平成27年度から29年度、文部科学省の「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、市内にある第三小学校、雷塚小学校、第三中学校、都立上水高等学校の4校が連携して研究を進めてきました。指導内容や活動形態、指導法などが異なるなか、校種を越えて連携を図っていくことは容易ではありませんでしたが、この3年間で、小・中・高の一貫性を意識した指導の土台を築くことができたのではないかと考えています。

はじめに

研究初年度は、小学校で初めて導入される教科「英語」について、何から取り組んでいくべきなのか分からず、手探りの研究となりました。毎日が試行錯誤の連続で、それぞれが、自校の研究を進めていくことに精一杯で、連携と呼ぶには程遠いものがありました。そこで、4校の連携を深めていくため、初年度の12月に文部科学省の直山木綿子教科調査官に御指導いただくことにしました。今思えば、この日を境に連携が本格的にスタートしたと言えます。

中学校教員との連携授業



● 中学校教員による英語の指導

二つの小学校では、英語活動支援員やALTに加え、第三中学校の英語科教員が外国語活動・外国語科の授業を学級担任と共に指導しています。子供たちの実態を誰よりもよく知っている担任と専門的な知識と経験を持ち合わせた人材とが連携することで、多くの学習成果を上げることができました。

合同部会の設置

2年目からは、学校間の連携を強化するとともに、各校の先生同士の交流を深めることを目的とした「合同研究部会」を設置しました。

1学期は、互いの授業を参観して懇談会を行い、連携の土台づくりをしました。2学期には、他校の研究授業に参加し合い、それぞれの学校で取り組んで



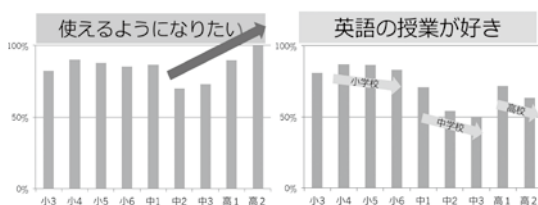
いる研究の良さを共有することを目指しました。これによって、それぞれの学校の連携を深めることができました。

あわせて、これまで一つだった4校の研究推進委員を「研究部会」と「調査部会」の二つに分け、多角的に研究を進めていくことにしました。

調査部会の取り組み

調査部会では、共通した項目の意識調査を作成し、その分析を授業に生かそうと考えました。私たちはアンケート結果から二つの点に注目しました。

一つは「使えるようになりたい」と考える児童・生徒が、学年が上がるにつれて増えていくこと、もう一つは、「英語が好き」と考える児童・生徒が、学年が上がるにつれて減るという現実でした。



私たちは、この現状を少しでも良い方向に変えていくことを目指して研究を進めていくことにしました。

最終年度と同調査では、全ての学年で上昇が見られたわけではありませんが、小学校4年生と中学校3年生に大きな変化がありました。「好き」と回答した割合が、小学校4年生で12%、中学校3年生で16%増加しました。そして、この二つの学年は「学習ができる」という項目でも肯定的な解答が、それぞれ15%と30%増加しました。「できるようになりたい」→「できた」→「好き」→「もっとできるようになりたい」というスパイラルを作っていくことが大切であるということが改めて分かる結果となりました。

研究部会の取り組み

研究部会では、研究協議会や検討会等における情

報交換を通して連携を図り、指導内容の工夫や改善のための取り組みについて話し合いを重ねてきました。そのなかで、将来的に自信をもって英語を用いたコミュニケーションを図ることのできる児童・生徒を育てたい、という明確な目標ができました。そこで、実践的な対話場面を想定した言語活動を授業に意図的に取り入れ、効果的な連携の具体化を図ることにしました。これによって、お互いに理解しながら必然性のある単元ゴールを設定することができるようになりました。

平成 28 年秋に行われた「小中一貫教育全国サミット in 武蔵村山」では、買い物などの「店でのやり取り」という共通の場面を設定した内容で授業を行いました。その場面設定を受けて、共通の場面における会話表現の例を発達段階ごとに横断的に表示し、学年が上がるにつれて使用する語彙や文章表現の難易度にも変化が出るように考えました。小学校で学習したことが、どのように中学校、高等学校へとつながっていくのかを議論し、4校で連携しながら単元指導計画を作成しました。

最終年度には、3年間の研究の集大成として行った研究発表会で、扱う表現だけでなく他教科とも関連付けることができ、各校種共通に取り組むことができるテーマとして、「まち」を選びました。

自分の住んでいる身近な地域から海外の国々に至るまでひじょうに広範囲の場所が対象となるものの、どの学年も生活科や社会科、総合的な学習の時間などで扱っている題材であり、自由度が高く必然性のある場面設定が可能になると考えました。研究発表では、小学校1年生から高校1年生までの全10学年分の指導計画を作成し、授業を公開しました。

小学校1年生の「好きな公園の遊具を紹介しよう」では、生活科と関連した授業を作りました。実際に遊んだ身近な遊具を扱うことで、自信をもって、英語を使ったコミュニケーションを図ることができました。2年生の「公園をデザインしよう」では、英語を使って、友達と「遊具カード」をやり取りすることで、進んで話す・聞こうとする様子が見られました。

3年生の「建物クイズをしよう」では、オーストラリアの建物クイズを通して外国の文化に触れる活動を行いました。実際にオーストラリアよりゲストを招き、交流することで、音声の違いを感じることができました。

4年生の「東京名所のお土産を買いに行こう」では、

社会科と連携させて授業を展開しました。自分たちの住んでいる東京の名所について数か所調べ、それを



● 海外のゲストを招いた授業

身近な外来語を使ったお土産グッズにして、買い物の疑似体験を取り入れました。

5年生の「行き先を案内しよう」では、東京都教育委員会作成の *Welcome to Tokyo* の内容を基に、東京オリンピックでの「おもてなし」を考えました。

6年生の「武蔵村山市を紹介する動画を作ろう」では、新教材 *We Can! 2* の Unit 4 「I like my town」を基に作成し、本市を動画で紹介する活動を行いました。



● 小中連携授業

中学1年生と小学6年生の交流授業「Traditional Theaters」では、中学生が校外学習で訪れた川越市の様子を6年生に英語で伝える活動を行いました。中学生は、小学生にわかりやすく伝えようと考え、小学生も内容を推測しながら聞いていました。

おわりに

この3年間で大きく変わったのは、何よりも小学校の学級担任の「英語」に対する意欲です。3年前は、「なぜ小学校で英語?」「授業のやり方がよく分からない。」という声が多々ありました。この研究を通して、試行錯誤しつつ日々の授業を大切にしながら実践してきたことが、大きな実を結んだといえます。今では多くの担任が自信をもって、英語支援員やALT、中学校英語科教員と協力しながら授業に臨んでいます。この3年間の成果を生かし、2年後の新指導要領の実施に向けて、更に良いものを目指していこうと思っています。



連載

豊かなコミュニケーションを育むアクティビティ
学級作りにもつながるおすすめの活動を紹介しします

【第3回】

ALT's Speech Time / Telepathy Game

■遠藤恵利子（仙台市立向山小学校）
むかいやま

相手に心寄せ、話に耳を傾け推測してみよう！

ALTのスピーチに心を寄せて話を聴き、キャッチした言葉を手がかりに内容を推測し、英語の音声に慣れ親しむことを目的に行っている「きく活動」です。ALTには現在学習している単元の表現や既習の表現を使い、学年や学習レベルに応じてスピーチ（2文～5文程度まで）を考えてもらいます。

ALT's Speech Time

▼進め方

●例：「My Birthday - 誕生日はいつ？」の単元を学習している場合のスピーチ（くりかえしの要素が多いため、文の数は多め）

ALT: Hello, everyone. I tell you about the birthdays of my family. There are four people in my family. My birthday is September 23rd. My brother's birthday is March 1st. My brother is twenty five years old. My mother's birthday is July 22nd. My father's birthday is April 4th. My mother and father are fifty-three years old. That's all. Thank you!

スピーチを聞いた後、子どもたちは、「family? birthday?」「初めは September って聞こえた。」「brother? って聞こえた。」などとキャッチした言葉を出し合います。さらに「Once more, please.」と聞き返したりしながらスピーチのおおよそを推測し合います。

言葉や動作などに注意を傾けて見聞きし、推測しながら理解しようとすることや、相手に心を寄せてコミュニケーションを取ることを学びます。

相手と心合わせの一わくわく感と楽しさを！

「Telepathy Game」は、音声に十分慣れて語彙や表現を使ってみたくなる頃に行えるドリル活動で、どの学年でもどの単元でも応用できます。ペアの相手と学習した英語を使いながら、ワクワク感と楽しさを共有して活動することができます。

Telepathy Game

▼進め方

●例：「World Trip - 行きたい国は？」

- ① 子どもはペアになり、背中合わせに座ります。

イラスト・田村敬子
- ② ALT/HRT が「Where do you want to go?」と、クラス全体に尋ねます。（慣れたらみんなで言うてもよい。）
- ③ 各ペアは、「I want to go to（ここまでは背中合わせのまま発話。次の国名のところできると体を回し向き合い同時に国名を言う。）

S1: China! / S2: Italy!」
このやり取りをリズムカルに続けていきます。S1とS2が選択し発話する語彙は多くから選択するのではなく、学習状況や内容に応じて3～4つなどの絵カードを順次指定しながら適宜選択させて行います。
- ④ S1とS2が同時に同じ国名を言ったら「Lucky!」、上記の例のように違う国を言った場合は「Unlucky.」喜んだり、残念がったりしてわき上がる瞬間です。

テレパシーで合わせようと言葉を自分で選択し、何度も英語表現にチャレンジします。結果としての繰り返しが行われます。相手と表現をマッチさせようと、英語を使うことに積極的になっていきます。

心を伝える Classroom English

Classroom English (教室英語) は「人と人とをつなげる」コミュニケーション・ツールです。伝えるために大切なのは、正確な発音よりも、気持ちを込めることです。イントネーションや声、顔、身体表現にも工夫が必要です。Classroom English を上手にを使って、児童とのコミュニケーションを深めましょう。



福田 スティーブ利久
文教大学教育学部准教授

第3回 【基本表現 Let's ...】

クラスルーム・イングリッシュは「英語の授業の雰囲気づくり」の役割も担っています (MEXT, 2017)。授業の雰囲気づくりの一環として、英語で指示をしてみましょう。例えば、Let's listen. (聞きましょう。) や Let's make pairs. (ペアを作りましょう。) 等の Let's... は基本表現の一つです。

おさえておきたい定番フレーズ

Let's play again. (もう一回やりましょう。) や Let's try it. (やってみましょう。) 等は既にお使いの方もいるかもしれません。その他、Let's の後に、授業のどのタイミングでも使える表現例として

-start / stop / stand up / sit down / make a circle [group].

-play a game / say hello to Mr. [Ms.] (ALT) / try again.

(活動中に使える表現例)

-sing / chant / practice / think / check.

-open [close] our books.

-listen and touch [draw/point/circle/repeat/color].

のような語句を入れることもできます。

Let's ... のフレーズを活用して、授業中の自然なインプットを増やしましょう。

先生も生徒も Let's ... に慣れてきたら

Let's ... を他の言い方に替えてみましょう。Do

you want to ...? / Who wants to ...? / Can you ...? であれば、児童が知っている語彙も多く使うことができます。例えば、Do you want to listen? (聞きたいですか?) や Who wants to try again? (もう一度やりたい人はだれかな?), Can you say it again? (もう一度お願いします。) 等があります。これらを使えば、インプットのみならず、会話のやり取りも増やしていくことができるでしょう。

参考: MEXT (2017)『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』p. 118.

★ワンポイント・レッスン

指名した児童が答えを間違えたという経験は、教師であればどなたにもあると思います。その際、励ますつもりで Close! (惜しい) や Almost! (近い) という言葉がけをすると、その児童が顔を上げなくなったり、耳が真っ赤になったり、それ以降手を挙げてくれなくなったりしたことがあるのではないのでしょうか。私は自身の経験から、「No, but good try! Thank you.」や「No, but nice idea!」のような声かけをするようにしました。すると、間違えた後でも手を挙げる児童が増えていきました。手が挙がらない児童には、「Let's try!」ではなく、「～さん、～君、Do you want to try again?」と優しく声をかけます。「まだ」や「No」という児童もなかにはいますが、「Don't be shy!」や「Don't worry!」等の言葉は使いません。まだ心の準備が必要なのだと理解し「It's OK.」と返します。しばらくすると多くの場合、児童が間違いを気にしなくなり、今まで手を挙げていなかった児童の手が挙がりはじめます。



Steve T. Fukuda
日米の両方で教育を受ける。
高校教員を経て、
教員養成に携わるために
大学の教員となる。
モットーは「思いやり」と
「恩送り」。



主体的な学びをめざす 小学校英語教育

—教科化からの新しい展開—

小学校英語の教科化を踏まえ、「主体的な学び」をキーワードに、具体的な展開の仕方を提示する。

金森 強・本多敏幸・泉 恵美子 編著
A5判／216 ページ／定価：本体 2,400 円＋税



Q&A 小学英語 指導法事典

教師の質問 112 に答える

小学校英語の教科化に向けた教師たちの質問や悩みに、理論と実践の両面から答える。
好評『Q&A 中学英語指導法事典』の小学校版。

樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉 恵美子 編著
A5判／288 ページ／定価：本体 2,800 円＋税



教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 TEL: 03-3238-6965
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp> FAX: 03-3238-6999

こちらから
弊社サイトに
アクセスできます。



Smiles

◎あとがき

いよいよ新学期が始まり、小学校では新課程への移行期間が始まりました。先生方はこれまでの「外国語活動」の内容だけでなく、文科省作成の新教材を活用しつつ、新課程の「外国語」の要素を含む授業を行うことが求められています。児童たちは、同じ学校にいても、生まれた年度によって学ぶ機会も進度も異なる環境で英語を学んでいくことになります。どの子どもも前向きに外国語を学んでいけるよう、わたしたちもサポートさせていただきたいと考えています。 教育出版英語編集部

小学英語通信 ONE WORLD 小学校英語応援マガジン Smiles [2018 年 春号] 2018年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864(内容について) 03-3238-6901(配達について)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

表紙イラスト：クドウあや



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F	TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F	TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F	TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F	TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F	TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F	TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F	TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室	TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F	TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配付を許可されているものです。